

幼稚園における製作教材

出席者

林 健 造

佐 藤 諒

砂 場 三 郎

津 守 真

幼稚園教師 A・B・C



津守 今日はお暑いところをお集まりいただきありがとうございます。
ます。

この「幼児の教育」には、佐藤先生、砂場先生、製作教材について何回も続けて書いて下さるので、私も大変ありがたいと思っ
ているのですが、それを少しでも現場の方に生きるような形に
したいと、かねがね思っています。それで今日は、先生方に少し
お話しただくと一緒に、現場の方々にもお集まりいただき、も
う少しどういうようなことが知りたいかというそんな注文だの、
それから、いろいろなアイデアがここにありますから、それを今
度は実際にどう生かすことができるかなど話していただきたい
と考えています。

今ちょうど佐藤先生には、動く材料やアイデアについて書いて
いただいている最中で、また砂場先生には木工のことについて
書いていただいているところですが、今までの経過をい
ますと、佐藤先生には紙制作について八回にわたって基本的な
ことから手ほどきしていただき、砂場先生には何回かにわた
って「製作の素材の基礎知識」それから「子供と教材」とか「身
近な材料」とかそんなことを書いていただきました。なお林先
生には教材のアイデアというところで何回か書いていただき、
そのほかにも牛島先生や昇地先生に、これは幼児教育の立場か
ら、教材の問題を少し書いていただいたわけですが、私も幼
児教育の立場からいいますと、現場で、今非常に既製品のおも

ちゃや教材がそろっているものですから、昔みたいに自分で最初から作る必要が無くなっているというような点で、先生たちが自分で何か作るといふようなことを考えて行く機会が少なくなっているように思います。

先生が、子どもの使う材料やおもちゃ教材を自分で作ってあげるといふようなチャンスがもつと必要だと思ふのです。今いろんなことで忙しかったり、既製品が多かったりしますから、そういうチャンスがわりに少ないのですけれど先生がちょっと作ってやりますと、それは子どもにとってはまるで興味をひくものに見えて、魅力的なものになるのです。それで、このあいだの「紙製作の基礎知識」素材の基礎知識「接着剤のこと」それから今始めていただいている「木工の基礎知識」などこれは先生方のそういうことの為に役立つのであって、私はこれが重要なものの一つだと思つてゐるのです。これが一つと、もう一つは、子どもと一緒に何かを作る、あるいは子どもが作るためにそろえる素材に関する知識が必要だと思ひます。

教材研究については、この二つの部分があると思ひます。それで今日のお話ですが、読者が必ずしも全部忠実に読んでゐるとは限りませんから(笑)、最初にちょっと、書かれた立場から、今までの骨になるようなことをお話していただきながら先の方に進んでどうかと思ふのです。

佐藤 私は紙製作の基礎知識を書いたのですが、紙というものをみんな案外知らないですね。紙の性質とか特徴とかいふものを、知らないながら、うまく生活の中で使つてゐる場合がずいぶん

るんじゃないですか、それをできるだけ整理してみてもどうかというので、やってみたのです。

それから、ひとところ紙の仕事というところ、幼稚園とか低学年とかの小さい子どもだけの仕事と考えられていたのですが、使ひ方によつてはいろいろな表現ができると同時に、計画的にやらないとできないような仕事もあるので、紙の種類をならべてみると幼稚園から大学の生徒がやるくらいのものであるんですね。そういうものをひととおりひろいだしてみたいなと思つて、集めてみたのです。

それから「動くもの」についても少し書いたのですが、ただ機械をいじくるだけが動くものじゃなくて、動かないものを動かすにはどうしたらいいかということから考える。動かないものというのは、力のバランスが安定しているわけですね、そのバランスをくずして動きが生じたら、それをスムーズに継続して動くように考えていくことですね。その点、動くものに対しては、ある程度の理知的知識というものが必要ですね。そういうことを知らずに教えると、動くものも動かなくなつてしまふ(笑)。そんな所にチョツとしたコツがいづくかあるんですが、小さい子どもでもそのコツをのみこめば、簡単に動かせるというようなものができるだけあげてみたんです。

紙について

津守 佐藤先生の紙の話は、ずい分回を重ねて書いていただいたのですが、紙について、こんなに系統的に書いたものはあるので

すか。

佐藤 紙だけについてまとまったものは、日本には無いですね。外国にはあるんですが。

林 アメリカあたりにあるんですが、種本は日本にあるかもしれないですね。日本の方が案外発達しているものね。和紙の透明さなんていうのはいろいろ利用することはできるんだが、仕事はむずかしいですね。和紙の方が。

砂場 昔、私の田舎などでは大福帖なんかの和紙を破いて敷物にしてね、あれもいいものですね。

林 はあはあ、夏の敷物ね。

A あの、のし紙の上等なのがございますが、あれは和紙の一種ですね。あれを私よく子どもたちに使わせます。親にとっておかせましてね。破けないものを作る時にはとってもいいです。

砂場 ええ、あれはとても丈夫だし柔軟性がありますしね。

A ええ、あれで長靴を作った時はおもしろかったですよ。ちょっとはいても破けませんでしょ。それに歩いて指の先や何かがくしゃくしゃにならないんです。子ども用のはさみでもよく切れますしね。だから先生、高いっていつても、そこら辺にころがってるのを探すとあるんですね。

林 そうですね。

佐藤 よく丈夫な紙っていうと、セメントの袋のクラフト紙ね。あれを使わせるんですが、あれはちょっとかたくて柔軟性が無いんでね、その点和紙はいいですね。

A ただ、のし紙の大きさが大体きまっていますので困るんです。

それで佐藤先生の貼り合わせ方なんていうのを、よく参考にさせていたただいてだいぶ智恵をいただきました。(本誌64巻1号)

津守 あの、きざみを入れてっていうのですか。

A ええ、和紙ですとあのきざみがつつのですが、画用紙ですとビビーンといてしまうんです。今私そうやってますけど、子どもたちはあのまんまで何かしたい、自分のものをよごしたくないっていう気持ちがありますでしょ。だからもつといいやり方などがありましたらそういう時の智恵をいただきたいなと思っただけです。

林 そうですね。和紙ですと、わりとビツとつかないんです。

A そしてあれはどういうのか、つばきをつけた方が破けないって子どもたちがいうんですよ(笑)。何かくらべたらいいんです。おまじないっていうこともあるのでしようが、たしかに切り込みを入れていった所がつばきをつけるとばやけますしよ。そうするとビシャッとくつつくんです。先生のお書きになつていたつばきのりと同じような働きが、こうなった所にあるらしくてね(笑)。

津守 ちぎるとか破るとか、あんなのなんかまだ幼稚園に行く前の

子どもがすることですけど、案外むずかしいんですね。破っているのは。それと僕が感心したのは叩くことですね。紙を叩くなんて、これも幼稚園前の子どもからやるだけけれど、下に型を置いてプレスするというのはなるほどと思いました。(本誌64巻3号)

A その上に霧ふきをさせたんですが、とってもきれいなのがで

きました。佐藤先生のを読ませていただいて叩かせたら、知能の高い子どもはその凹凸でよろこんだのですが、知能の少し低いような生まれのおそい子どもは、こう叩いて叩き過ぎて破いちゃうんです。それで途中でやめさせるのに、もういいっていうと何かいけない気がしたものですから「それくらい叩いたら今度は霧をふいてごらん」ていって、絵の具の霧ふきをさせました。そうすると凹凸で霧のかかりようが違いますでしょ。それで、とてもきれいなのができました。

林 なるほどね。

津守 下に置く型なんかは、どんなものを使うんですか。

A お部屋の中から、型になるものを探していらっしやいといったんです。でっばりすぎたものは破けるといふようなこともわからせたいなんて、ちょっと科学性みたいなものも考えたものから、探してこさせました。

佐藤 紙の凹凸では、ダンボールなんかね、片面からこうやって、もう片面からやると見る角度によって色が変わるでしょ。あれなんかもおもしろいんですね。

A 紙質は、あの時は包装紙と画用紙とわら半紙と透明のセロファンと四種類でやったのですが、包装紙が一番よかったです。ただ、霧をふいた時のおもしろさは、画用紙の方がずっと強く吸い込んで行きますのでね、その霧ふきをさせてからは、皆が画用紙を取りにくるようになりました。その霧ふきをしたもので、うちわをはらせましたよ。ちょっと重いですけれど、でも自分たちで使ったといつてよろこんでいました。バサ

ッバサッっていつてね(笑)。

では次に砂場先生、先生の書かれたものからひとつどうぞ。

材料・道具などの基礎知識

砂場

ぼくはね、はじめから最後まで、対象が何を求めているのか、どういう風にかいていいのかわかっていることが、どうもビッタリわからないままにずっと続いている形なんです。ずっと書いて、あまり深く進んでいっても思ったり、やっぱり書く以上は何かと思ったり、ちょっとこの暗中模索という感じなんですかね。初めの方の石膏とかいろいろのブリキだとかそういう素材のことなんかは、それなりに書いてきたわけなんですけど。

佐藤

素材についての見方も、子どもの目で見た時と我われが見た時と、ずい分違うだろうね。

砂場

うん、だから僕は子どもっていうことはあんまりいってないんです。あくまでも先生が主体だったものですからね。

林

現場の先生が実際に使う時に、これを使うといいとか、具体的なものがあるとわかり易いですね。例えば工具でも、のこぎりはこういう時に使うんだとかのみはこういう時に使うんだとか説明されたものは、ずい分できているんですよ。だけど、こういう時には軽いかなづちを使う方がいいんだっていうようなことを、具体的な例で「どっちがいいでしょう」なんていう問題でだすと、よくわかりますね。今度、そういうふうにしてだしていた方がいいかもしれない。まあ幼児だから、小さい釘を手で小さいかなづちを渡しておけばいいんじゃないかってち

よっと考えますけれど、実際は逆なんですわね。

砂場 僕、そういう風な、よくまちがって考えられそうなことをだ
いぶ書いてきたんです。通りいっぺんの技術書みたいなのは、い
くらでもありますからね。

A ほんのちよつとしたことが、わからないんですよ。

林 そうですね。

B のりの接着剤としての種類はいくつか知っていますけれど、
普通ののりの濃さで、私たちが自分失敗しています。こすぎる
のを与えて破けちゃって「失敗」といって子どもが次をやらな
くなってしまったり、うすすぎてはがれてしまったり……。先
生はものほしばさみってお書きになってましたが、私は子ども
たちの手先のこまかい仕事にもいいのでクリップを渡してあり
まして「つかかなかつたらクリップしなさい」といっているのです
が、そうはいいものの、これがクリップなんか使わなくてもち
ょうどいいのりの濃さっていうのがあるんじゃないかっていつ
も思うのですよ。

C 私、先生が接着剤のことを書いて下さってよかったですなと思っ
のは、今、何でもセロテープに頼る傾向がありますでしょ。子
どもたちも、のりで二、三回やってつかないとすぐ「セロテー
プは？」ってくるんです。だから、そういう子どもたちのずる
さと、今の子どもたちに努力するっていうことを教えないよう
な不幸になりがちになっていると、いつも思うのです。そうか
といつて、「今、セロテープないわよ」といって「じゃあし
たらちから持つてくるから、今日はこれでおしまいにしとく

ね」なんてやられてしまうわけなんです（笑）。

林 申し訳けないけれど、僕、間もなく失礼しなければなら
ないので……。

技術と子どもの心と

林 あかね……：いろんな技術みたいなものについては、いるか
いないかという問題がありますね。津守先生も、知ってた方

がいいにちがいないって、おっしゃったが、技術などを考える
前に、もっともっと大事なことがあるっていうことを前提にし
てもっていなければなりませんね。子どもを見つめる心とか愛
情とかそういうものが基本にあつてこそで、これがなくて技術
ばかりを追っていたら、やっぱりそれは技術主義になってしま
う。いらないうつていうのは、そういうことをいっているんであ
つて、そつちを忘れて技術主義に流れたんでは困るので、技術
なんていうものはいらないんだ。とにかく子どもを愛する心が
一番大事だつていっているのも、そういうことなんだろうね。
だからひっくり返していえば、そういうものをもともと皆さん
がお持ちになっていらっしゃれば、実際に物を動かすにしたと
ころで、あるいはいろんな機構的なものをやるにしたところ
で、やっぱり技術は知っていた方がはるかに効果的であるとい
えると思いますね。それともうひとつは、幼稚園の先生は特にア
イディアマンであることが必要ですね。アイディアマンだつて
いうことは、ひとつは、リラククスされた精神が大事だつてい
うことでしょうね。もうひとつは、あんまり読む本でも何でも

コチコチ一本にならないってことですね。何か幼稚園の本がないか、幼稚園の本ないかと思って探したって、これは駄目ですな。そういう気持ちで、リラックスされた精神で、アイディアマンであるっていうことが、非常に大事だということですね。

それから動くことや何か、佐藤先生からお話があったけれど、動くことの前にね、動いているように感ずる心があるんだなあ、子どもには(同意)。このところを一足飛びにして、動くにはどうしたらいいでしょうって行って行かないことだと思いますね。何かこう紙きれひとつ持っても、「サーッと飛んじやうんだ」(身振をつけて)ってところがあるんだね。これが大事なんだ(同意)。「それ動いてないじゃないか。それは車つければ動くんだよ、いいかい」っていつちゃって、だめなんですよ。

僕はちよっとおもしろいものを持って来たんですよ(鞆の中から何かをとり出す)。これは不思議なものだ。(細長く切った紙を何枚も何枚もホッチキスで長くつなぎ合わせてたんだもの、皆の前でほどき始める(笑))。正月に私の子どもとたこをとばしたんだが、電柱にひっかかって実はとばなくなっちゃったんです。たこってというのはまあいやなものを買ってきたんですけど、僕はその時思っただですよ。何故かっていうと、しっほつげなくちゃならないし、あれ、糸がむずかしいんですよ(笑)。でもいっしょうけんめいやってとばしたんです。そうしたら、とんだなと思っただ途端にひっかかっちゃったんだ。それがくやくしてしようがなくて、僕のアトリエにきて、何か作っている

んです。これ四才の子ですけどね、僕ずつと見てたら一生けんめいこういうふうに切って、ほらホッチキスでパンパンとめちやってこういうものを作ったんですよ。これが、延々とどこまでもどこまでも長いんだ。(更に長くほどいて見せる―本誌64巻7号)(笑)。こういうところがあるわけだね、子どもには。そしてこれとばしてちょうだいっていうわけですよ。これとばせっていわれてもねえ(笑)。佐藤先生に行く前の世界があるわけですな。これがとぶと思ってるんだ。とばすためにはとにかくババは何か長いしっぽをつけた。長くさえつけばいいんだらうっていう世界があるんですよ。これはまあ、かんで含めるようにいつてきかせましたかね、きくも涙、語るも涙の物語だったんですよ(笑)。でも、こういう子どもたちの世界を大事にしたいだいて、その上に佐藤先生、砂場先生のやり方っていうのが、ついてくると思うんです。それをいろいろこういう講座などでおぼえたことをすぐにだしちゃいけないんで、ちやんと腹の中に入れておいて、いつかゆっくりだす時があるんだから、その時の為にこういう講座を活用なさる方がいいというのを申し上げておきます。

じゃ、悪いけれど、皆さんお先に失礼します。

いろいろの材料

津守 林先生がいわれたみたいに、とっといつかだせるというのが本当は全く大事ですね。

A でも先生、たいてい皆そうだと思いますよ。次の準備の時

に、ああ何月号だったかなってひっくり返すかもしれないけれど読んでからってすぐはやらないわねえ(笑)。

砂場

そういうふうな気持ちで読んでいただけると、僕らも書いてはいるがあるんですけどね。これ、すぐ間に合うことではないですからね。先生方が教材を作ったりする時の役に立つようないですかね。先生方が教材を作ったりする時の役に立つようないですかね。先生方が教材を作ったりする時の役に立つようないですかね。先生方が教材を作ったりする時の役に立つようないですかね。

B

でもその基本的なことが、とっても大事ですよ。特に幼稚園の先生には、そういう知識って必要じゃないでしょうか。

C

ことに木工なんかに関しては、ほとんど知らないぐらいです。だから、簡単なものを作るにも、変な所に釘をさしちゃったりしてすごく苦労しますから。

B

幼稚園の中で、子どもたちの道具をかける洋服かけがとれちゃって、古い校舎なものですからその穴ももうガバガバになって五寸釘でもうたなければおさまらないようになってしまったのですが、それを見ていてある子どもが紙をまるめましてね、先生これをおしこめてそれで釘を打っていつて助け舟をだしてくれました。だからやっぱり子どもが「とれちゃった」といった時には、私たちにそういう智慧があって、何かの方法を講じて「ほらついたわよ」って安心させて帰さなければいけないんだと感じたことが、何回もあるんですよ。「先生また帽子かけがまがっちゃったよ」っていわれると、「大工さんに電話してとくわね」なんていつて逃げたりするんですがやっ

ぱり子どもは、帰るまでに先生と一緒にそれを直して、安心して帰りたいんですよ。ちょっと薄い板を持ってきてそこにどうしようかどうしようかって考えてしまったりして……。そういうとっさの智慧が、私たちにはでないんです。

砂場

そういうこと、初めの方にも僕ちょっと書いたけれど、先生方が、木だのブリキっていうと何かもう敬遠しちゃうからね。

子どもは案内木でもブリキでもかまわないですね。それをこっちが敬遠しちゃうものだから、紙とか粘土とかだけが幼稚園の教材だと決めてしまうようなことになって……。もち論この先生方は、そういうことはいらないと思えますがね。

津守

いやあるんですよ、やっぱりね。たしかに紙や粘土は扱いやすいけれど、もつと木や釘を使うっていうことは、僕は幼稚園でいいことだと思えますね。スケールが大きくなりますね。

A

そうですね。そこにある灰皿をさせた時に、非常にそれを感じました(机上にある空缶に針金を通して作った灰皿を指さす)。

砂場

この灰皿ですか、僕先ほどからちようほうしてます(笑)。

A

その缶に釘で穴をあけるっていうことがね、他の先生方は皆さん無理でしょうっておっしゃったんですが、やってみると今度はその経験が、水鉄砲をする時に役立って、プラスチックのふたにカントんに釘で穴をあけたんですよ。そういうことができてるっていうのは、やっぱりこわがらないでさせてみただからだと思いますね、敬遠しないでよかったなって思いました。空缶で灰皿を作ったあとでやはり空缶で動物を作りました。

た。それと釘だの何だのを組み合わせてね、すごくかわい
い動物ができました。釘ですから抜けちゃうんで、その先の方
を折って安定させるのにとでも苦労しました。ビニールを巻
いて、スポッと抜けないようにしてみましたね。

砂場 そういう場合に木の小片なんかと組み合わせると、打った釘
が木の方へ入っちゃったらもうとれないから、案外できるんじ
ゃないですか。

A はい、それでコルクをやったんです。びん屋でびんのコルク
を買いましたね、あれはとでもよろこびました。

佐藤 アイスクリームのふたなんかいいですね。あれまるく切るっ
ていっても、なかなか切れないでしょうね。

A はい切れないんです。それで、ボール箱屋に行つて型ぬきを
してもらおうと思つたのですが、なかなかしてくれませんが。
それに、のりものに適当な大きさのまるつて、型ぬき屋さんにも
ないですね。ですからそういう智慧もほしいと思うんです。

佐藤 ひとつ、ごく簡単な教材なんです、今研究して、教材
としてだそうといっているのがあるんですよ。あの、棒材を組
み立てていく時に、棒と棒をつなぐのを、幼稚園なんかではど
うやっていますか、棒の制作つてやりますか。

B 飛行機屋さんアルミ管がありますでしょ。あれを買つてや
ります。それを両方セロテープでちよつとつけてね。

佐藤 ええ、なるほど。

B こう長く線路なんかにしたがりまますのでね、それで苦肉の策
で、飛行機の工具を売るお店に行つたのです。アルミ管の長い

のを買つておいて、こっちでパンパン切つてやるんです。あれ
はいいですよ。水道に行つてチャップと水を流したり、いろん
なことで遊びます。曲がりますしね。だいぶむだにはしました
けれど、あんなのとめています。

佐藤 昔はよく豆細工なんかでしましたね。最近では豆も高くなつて
(笑)。

B 初め私、消しゴムを切つてやつたりしたのですが、やつぱり
だめなんです。

佐藤 野菜もいけれど、一日二日たつともうだめになっちゃいま
すしね。今、ストローがありますね。ストローだと少し太いん
だけど、もう少し細いのがあるんですよ。あれとパイプをこう
つなぐ時にね、モールを五センチ切つて両側にさし込んで、
こう曲げるといいんですよ。

佐藤 三本さす時には、もう一本モールを入れてまげればいいわけ
ですね。そうするといくつでもできるんですよ。

A なるほどね。

佐藤 それいいからつて、今教材として出すことにしてますけど
ね。それにストローなんかを利用すればね。

A やらせてみると、いろんなことをするでしょうね。

佐藤 おもしろいですよ。

C ストローとストローを接着する時にはやつぱりセロテープぐ
らいしかごさいませんか。

佐藤 ストローとストローねえ(考えこむ)。

B 子どもはストローを何本かかためると思うんです。それで

「先生つかないよ、何でつけるの」ってこられる時が、つらいんです。そうすると、セロテープいやだなんて思っています。「セロテープで巻けば」っていつてしまうんです。

佐藤 今、エンビ系統のセメダインがあるんですが、あれでつけるのとつきますけれど。

大きな製作

C 何か木工で作ったら、その上に乗ってみたいとかそういうもの、子どもの中にずい分できてきますね。そうすると、ある程度ガッチリしたものの、くずれないものに作っておくということも必要な気がしますけれど……。

砂場 そうですね。結局先生がそういうことにピッタリ合う材料を与えること、まあ構造的にちょっとした助言が一言あると案外強いものができるんですよ。釘一本とめるにしてもね。だからそういう点は、一枚の紙を半分に切ってその半分の紙を切ってもまげてもいいからしっかり立たせようっていう課題を四年生まで各学年やってみた例をとったのです。いろいろ学年によってちがった工夫がでてくるわけなんです。そういうふうなもの、まあ構造的なやつってほどのものでもないのですけれど、先生方もちょっと知っていれば、案外強いものもできたりすると思うんです。そういう点が私書いているねらいなんですけれど。(64巻11号参照)

津守 造形活動なんか、案外小学校よりも幼稚園の方が大きなものを作っているんじゃないかな。

砂場 ダンボールの箱なんかをのこぎりで切らせてみたらどうだろう。

佐藤 切れますよ。

砂場 幼稚園で。

佐藤 ええ、幼稚園でも。

砂場 そうですね。前にもここで話にでたけど、そういうからだとぶつかっていくということですね。

B この八月号に、コペンハーゲンの児童遊園地に、子どもたちが作った家があるという写真が出ていますが、そういうのができたらいいなあって思うんですよ。

A そうですね。子どもってみんなかくれたがりですよ。机を積みば必ずもぐり込むし、だからそういうかくれ家のアイデアっていうの、ほしいと思いますねえ。

C ダンボールの大きいのか、木だとかでね。

A ええ、それである程度永久的で、まあ三月位はとっておけるようなものね。

砂場 冷蔵庫ぐらいのダンボールの箱なんかでもいいね。

C それから、ダンボールじゃなくて大きな木箱があったらすぐくおもしろいんじゃないかと思うんです。あの輸出用の箱みたいなものが手に入ればと思っっているのですが、なかなか手に入らなくて……。

佐藤 このあいだ大きなボール箱をもらって教室の横に置いておいたら、上の窓の下ぐらいまである大きいものなんです。もうとにかく一日いっぱいガタガタゴソゴソやってみましたよ。

B

脱脂粉乳の空箱だつて、立てておくの中に入りますですよ。ところが年少なんかだとでられないんですよ。そうすると、はじめは「でられないよお」って中でいっているのですが黙って見ていると、デーンと自分でひっくり返つてでてきますからね。ああいう智恵、とても必要だと思ふんですよ。「あの中で眠っちゃったらどうするんだ」なんて、だいぶ私いろんな先生からいわれましたけれど、「絶対でてくるから」っていったんです。

砂場

特に私なんか田舎で育つたせい、やっぱり東京の子どもは、自然の中っていうわけにはいかないし、からだごと経験できる、体験できるようなことが少ないように思いますね。

佐藤

あんまり先生や大人が世話をやきすぎているんですね。

製作と安全と

津守

いや僕もね、みかん箱やもう少し大きなものを積み重ねたりして、戸外の広びろしたところの木陰なんか、自分たちで小屋みたいなものを作つたらおもしろかろうと思つただけど、もし釘がとびだしていてそれに頭をぶつけるなんてことになつたらこまるしね。

A

そうなんです。けがをさせたらこわいんですよ。親もそういうことには非常に臆病ですからね。

佐藤

小学校でもそういうことがありますよ。このあいだ、三年生にかみそりの刃を使わせようと思つて家から持ってこさせたんです。そうしたら、二人位でしたが「うちのお母さんがそんなも

の持つて行っちゃいけないっていったから」といって持つてこないんです。刃物は持たせないっていうのです。

A

職員室の中でも、そういうことで食い違ふ場合がありますからね。

佐藤

それで翌日のPTAで、その学年に行つてその件を話したんですが、僕は刃物を持たせる運動をするからっていったんです。刃物を持たせる時には扱い方をきちんと指導してから持たせることが必要なんであって、そういうことをせず持たせるからいけないんだといつてね。それから、あぶないから切れないものを持たせたらよけいあぶない。もし手を切るような心配があつたら、家から手袋を持たせるなり包帯を持たせるなりして、学校で持つてくるようにといわれたことはきちんと守つてもらいたいとそういうふうに話したんです。

砂場

僕なんか、そういうことが好きだったせいか、子どもの時から傷の絶え間がなかったですよ。

佐藤

でもけがしてだんだんよくなるんだよね。

砂場

そうだよ。そんなへたはしないんだから。

津守

こういうけがは、自動車事故とか水死とかとは違うものね。

今、安全教育っていうのが盛んですが、それは結局交通問題が一番大きいでしょ、それと洗濯機や何かの機械ね。だからそういうものにひつからめてで来たんであって、今、交通事故がふえたからって、木工などの事故もふえるわけではないし。

A

でも先生、やっぱり現場は、何ていうのかな、いろいろあるんですよ。

いろいろのはなし

砂場 僕の所では、もう小学校になりましたけれど、子どもが二人幼稚園に行つてましてね、その父兄の立場からいうと、どうも何かこじんまりとまとまった作品ばかりを持って帰ってくるんですよ。もう少しこうぬけたようなものをやらせた方が、おもしろいんじゃないかと思つたりするんですがね。

佐藤 うちの子どもも今年から幼稚園に行きましたが、このあいだ夏休みの宿題だとかでぬりえを持ってきたんですよ。

B あらまあ。

佐藤 これには困りましたねえ。とりあげると泣くし、幼稚園のものだから「いけない」ともいえないし。うちではできるだけだけほつたらかしにして、何でもやらせるようにしているんですがね。

砂場 幼稚園では父兄との関係が密だから大変ですね。

佐藤 実際に親になって子どもを育ててみるとね、僕はなるべくそういうこといわないようにしようと思うのですが、ダメっていうこととアブナイっていうこの二つのことがよくいいますね。気がついてハッとすることがよくあるんですよ。

それから、釘を打つこととかのこぎりで切ることなどは、ずいぶん早いうちからやりますね。もう二才〜三才になるとやり始めます。たとえば小学校でもハンダ付けを始めると、子どもたち夢中になって、家に帰つてもそれはかりしているんですよ。それで何がおもしろいかつてきくと、ハンダがジュッとつくところがおもしろいっていうんですよ。釘なんかを打つのも、初

めは釘をかなづちで打つ、それだけがおもしろいんですよ。

砂場 だから幼稚園でも、いろんな大きさの釘が入つた釘箱なんかをいつでも取れるように置いておくといいですね。

佐藤 それで今うちでは、幼稚園からもらつてきたものを何とかして忘れさせようと思つていんですよ（笑）。

C 私たちはおうちで作つてきちゃつたものを何とか忘れさせようとなね。

夏休みに入る前にも、お家でぬりえを与えないようにっていうことを何とかわかつてもらえないだろうか、いろいろやつたんです。そうしないと、折角もう少しで主体的に広がっていくんじゃないかと思われる頃夏休みで、それが終るとまたもとに戻つちやつているんですよ。

A 世の中も悪いのよね。毎月の雑誌にも付録がいっぱいあるでしょう。

C そうですなねえ、必ずついてきますね。

A だから私、幼稚園で渡す絵本の付録は全部抜いて渡しているんですよ。

砂場 ああいう学習の本にしても、作る人自体はいい本と悪い本っていうのはわかる。だがいい本が必ずしも売れる本じゃないし、まず売れる本を作らなきゃいけないっていうので、困っちゃやうんですよ。

C 年少の絵本でも、かなりむずかしい付録がついてますね。それと、夏休みの友みたいなのがでてくるでしょう。

A ああ、夏休みの帳面？

C ええ、あんなのにも、ずい分たくさんこまかいのが入ってるんですね。

B そういうもので、そこに説明されているように大人に教えてもらって、こういうふうにやってみればこういうものができるっていうようなことに馴らされているでしょ。ですからこの頃幼稚園に行きますと「何はどういうふうにして使うの」「何はどうやったらいいの」っていうような子どもからの質問が、ものすごく多いんです。今までそんなことあまり数多くかかれたことがなかったものですから驚いてしまったのですが。

A 付録だって、同じものができ上がるような付録にしないで「これで勝手にお作りなさい」というようなものにしてくれればいいですね。何か部分品はあってもいいから、勝手にできるものってどうしていけないんだろうと思うんですよ。

砂場 材料としてそこに付録を入れてくれるのはありがたいんだから、こう切り込みだけ入れて、あっちにおこそうとこっちにおこそうとちがうものができる楽しみのあるようなものがほしいですね。

砂場 さっきの話ではないけれど、和紙の十枚も入れといってくればありがたいんだけどね（笑）。だから条件で初めから終りまでしばっちゃわないで、いくつかの条件を与えてあとは子どもたちに自分でやらせ、同じものを与えてもいろいろなものが出てくるような付録なんかがいいわけですね。もち論教育の場でも、そういうことが必要なんですけれどね。

A だから小さな穴のあいた紙だけあって「ここの穴から何が見

えるでしょう」ぐらい書いておけば、年少児はそれを読みますから、その余白で顔を作ろうと何を作ろうとかえってその方がいいのね。そういうのおもしろいんじゃないかって思って、私はそんなのを二、三枚手作りで子どもたちに夏のお仕事として持たせたんですけれど……。

佐藤 だが雑誌関係では、だんだんそういう行き方から離れて行きますね。こちらでそういうアイディアをだしても、商品の見場とか受け取った時の子どもでなく大人の感じだとかそういうことで、変えてしまうんですよ。

それから、まったく水あそび泥いじりだけは、もう子どもの生活から離れないね。

C でもお母さんたちからみると、泥いじりさせるとすごくきたないっていうんですよ。

B 私の住んでいる所っていわゆる教育ママさんたちがいる所なんです、この夏休みになってブラリブラリと子どもを見てますとね、こうやって指につばきをつけて地面に絵を描いている子どもがいるんです。ああ、あれは泥んこいじりをさせてもらえないかわいそうな子どもなんだなって思ったんですが。

砂場 家庭でそうだからこそ、幼稚園でやらせてほしいところなのにね。

津守 ではおもしろいところなんですけれど、そろそろ終りの時間も近づいたので、今回はこのへんでおしまいにしたいと思います。みなさん、どうもありがとうございました。

（昭和40年7月30日）